

# 不祥事根絶のための行動計画

福山市立熊野小学校  
作成責任者 校長 渡部 智子

- |  |   |
|--|---|
| <p>1 危機管理意識を普段の仕事にも生活の中にももつ。</p> <p>2 「絶対はない」を共通認識とする。</p> <p>3 「ちょっと変だな。大丈夫かな。」という異変に気づく。</p> | <p>4 リスクを「芽」(ヒヤリ・ハット)の段階で潰す。</p> <p>5 法令遵守(コンプライアンス)の意識を持って仕事に当たる。</p> <p>6 「誇り」を持って職務に当たる。</p> |
|--|---|

区分	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の規範意識の確立	○「いつでも自分の身に起きる」という当事者意識を持つ研修にする。	○具体的な不祥事につながるとされる「ヒヤリハット」や新聞記事などを準備し、自分の行動を改善する。  ○長期休業中に、学年部で資料を作成し、主体的に研修を行っていく。	○定期的にチェックシート等を活用して、自己を振り返る。  ○研修の振り返りを学年部で集約していく。
学校組織としての不祥事防止体制の確立	○困ったことを相談し合える支援体制と教職員の相談窓口を維持する。	○教職員同士がその日のうちに報告・相談・連絡・確認ができるように、面談や日常的な場と時間の設定をする。  ○各委員会等で互いの仕事の情報交換や確認をし、特定の者に負担がかからないよう集団でサポートする体制をつくる。  ○日々の会話や個別面談を行い、悩んでいることなど、現状を把握していく。	○暮会、休憩・放課後等で些細な事でも気になることは情報交換する。  ○月に1回、不祥事防止委員会で進捗状況・情報交換を行い、現状を把握する。  ○学期に1回以上の面談を行い、現状を把握する。
相談体制の充実	○「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の周知を繰り返し行い、相談しやすい体制をつくる。	○ホームページや学校だよりで保護者等に周知するとともに、教室にポスターを掲示して周知する。	○毎月、ホームページや学校だよりの点検や掲示を確認する。